

卓球部

設立	1952年4月
部長	天野 英晴(情報工学科)
現在の部員数	25人(2013年4月現在)
OB/OG 会代表者	吉田 武弘
OB/OG 会会員数	88人
URL	http://rikotakkyu.exblog.jp/

はじめに

慶應義塾大学理工学部の前身である藤原工業大学予科鍛錬部に卓球部があった。しかし戦争で中断し、小金井の工学部時代に工学部体育会卓球部として再開した。藤原工大時代、小金井時代、矢上時代について紹介をする。

「卓球部は、スポーツを楽しみながら、体を鍛えることを目的としているクラブである。また、卓球部のメンバーと過ごして、学生生活を有意義なものとし、将来の友を作るチャンスがある」ということは一貫して変わっていない。

藤原工大時代

藤原工大豫科誌創刊号によると、1941年9月に藤原工大予科の3年生2名が、慶應義塾体育会卓球部の日吉での8日間の合宿に参加している。そして、「最後に我が藤原工大の卓球部の現状を少し述べさせて頂く。今我々卓球部員として練習して居る者は個人として慶應卓球部に入り、全く慶應の部員の一人としてのみ認められて居り、藤原の卓球部の存在して居る事は一言も口にしないけれども又何らの発言権持たぬ故に黙って居るが、我々の理想として藤原工大の方も練習が出来る様になれば彼等より独立分離して行きたい、又リーグ戦に加盟して新に彼等と檜舞台で対戦する日を望んで居る。」と記録を残している。

小金井時代

工学部が溝の口から小金井に安住の地を得ると共に、多くの運動部が再開される。卓球部の場合も、藤原工大卓球部との直接のつながりは見出



12期卒業アルバムにおける卓球部員
(1950年入学 1954年卒業)

されないが、1950年入学 1954年卒業の12期生の卒業アルバムに8名の部員が写っている。

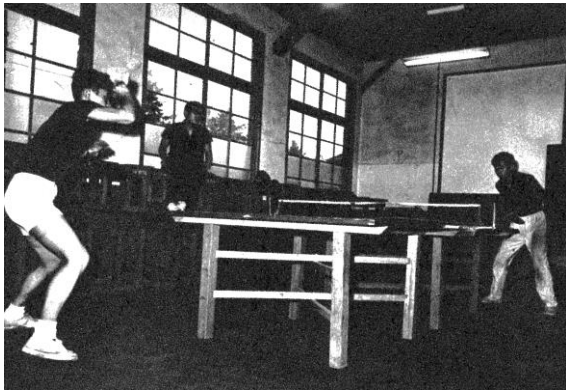
1962年6月24日に三田の西校舎で開催の「23周年工学部祭」に際して慶應義塾大学工学部と工学部自治会が刊行したパンフレットに、卓球部の活動が以下のように掲載されている。

「工学部には卓球の練習場がないので、練習は放課後教室を借りて毎日2時間程2台の台で行っている。現部員35名が都合の良い日に5~10名位ずつ練習している。試合は春と秋に、全関東理科系大会大学卓球選手権大会、医学部、農工大、学芸大、スポーツ愛好会、ICV等と定期戦を行い、今夏には軽井沢で合宿、また冬春の休暇に強化練習等を計画している。練習場がないという不利を、チームワークの良さとなごやかな雰囲気でもカバーし、卓球の手軽さと風雨に左右されないという利点をいかんなく発揮して、連日練習に励んでいるのが卓球部の現状である。」

矢上時代

以下に、1976年から1980年まで慶應大学工学部で学んだ38期生の活動を紹介します。

1976年に工学部体育会卓球部に入部した。同期は10名程度で、卓球の経験者と未経験者は半々くらいであった。我々は決して強くはなかったが、



小金井での練習風景(23期卒業アルバム)



矢上での練習風景(30期卒業アルバム)

皆、最後までクラブを続けることができ、とても良かった。練習は水曜日、金曜日、土曜日の週3回行っていた。我々の時代の部員数は20から30名程度であった。

対外戦として年に2回、早稲田理工との定期戦を行っていた。場所は慶應理工の体育館と早稲田大学の体育館であった。早稲田大学に行ったときには、早稲田大学の本体育会卓球部の有名選手がいて、とても素晴らしいプレーをしていた。また、関東理工系大学生の卓球の試合にも参加していた。特に上の方にはいかれなかったが、2試合から3試合は勝ち、3回戦や4回戦程度に進んでいた。2つ下の学年には中学・高校で活躍した選手もたくさんいて、それなりの良い戦績であったことを記憶している。

春と夏には合宿を行っていた。春は合宿の場所を伊豆、千葉と変えていたと記憶している。夏は長野県の戸狩の喜多山荘で行った。20名を超える部員で楽しい合宿であった。確か1997年の夏、我々が2年生のとき、合宿に行く電車が暑さのために線路が膨張して脱線し、電車の後部車両が横

転したことは、今でも記憶に新しい。ガラス窓も割れて、皆びっくりした。その後バスで次の駅まで行ったことを記憶している。また、合宿の帰りに長野の善光寺へ行ったことも鮮明に記憶している。

こんな卓球部での生活であったが、大学時代の卓球部の友人は、今も我々にとってとても大切である。小泉信三先生によるスポーツの三つの宝(練習は不可能を可能にする、グッドルーザー、友は宝)を身をもって感じる。学生時代の友は本当に大切である。

また、我々にとって神宮、秩父宮の存在がとても大きい。毎年、東京六大学野球慶早戦の春の初戦は、新入生も入るので、卓球部のメンバーと応援に行った。特に慶應に入学して初めての春は、慶早戦の素晴らしさを感じ、多くの塾生とともに慶應に入学した喜びを感じた。卒業後も、東京六大学野球を見に神宮に行くと、なぜか純粋な気持ちになれる。もちろん慶應が勝った方がうれしいが、試合では色々なことが起きる。選手の頑張りが自分も励ましてくれ、心の支えになっている。

秩父宮でのラグビー観戦も、応援することに喜びを感じるととともに、慶應の選手の頑張りから、勇気をもらうことがある。

最近の活動

以下に、宮山明(現在修士2年)からの報告に基づき、最近の卓球部の活動を紹介する。

最近では、2012年7月の理科系戦で、ダブルス戦で3位入賞、シングルス戦で4回戦進出を達成した。また、2012年9月の理科系戦団体戦で2回戦に進出した。2013年3月の全塾卓球祭にも出場した。

毎週水・金・土の週3回、慶應大学矢上キャンパス(理工学部のあるキャンパス)の体育館で午後活動を行っている。学部2年が13人、3年6人、4年3人、修士3人の計25人が在籍しており、メインで活動するのはこのうちの半分くらいである。学部の割合としては理工学部が主で、他に経済学部2名と文学部1名在籍している。メンバーの多くが中学・高校で卓球を経験しており、普

段は気分転換に体育館を訪れることが多い。定期的な運動を求めて初心者も一定割合入部してきており、活動中は学年・力量関係なく和気あいあいとした雰囲気である。

写真に示した体育館はバスケットコート1面の広さで、普段はその半分を使用して活動している。写真の通り卓球台を3台並べてプレーする形をとっている。部室も矢上キャンパス内にあり、活動後、ゆっくりしながらゲームや歓談をして晩御飯という過ごし方が多い。話題としては、大学の授業や時事問題・就職活動などが多いと感じる。飲み会にはメンバーの多くが集まる。

現在の部活動はこの活動を主体的に取り組むよりは、大学の授業やアルバイト、別サークルの活動と両立し、気分転換として取り組むメンバーが多く、全体での時間はとりにくくなっている。参加人数が少なめなので、もう少し参加率を上げて合宿等が行えるといいと考えている。

その他、個人で一般の大会や卓球サークルに所属するメンバーもあり、多様な卓球ライフを楽しんでいる。

OB会

基本的には、年に一度OB会を日吉で実施している。このときは、矢上の体育館で現役とOBで卓球を行った後、日吉の町でOB会を開催した。

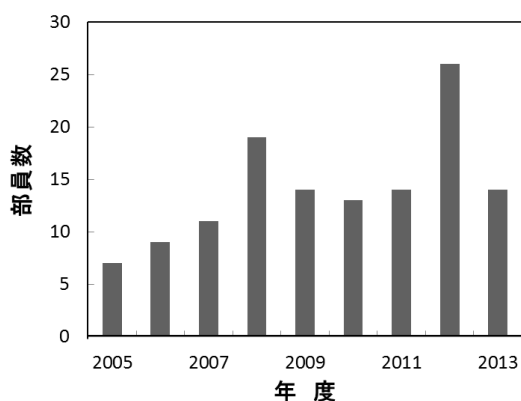
2012年12月のOB会参加者は4名、他は現役である。少しさびしい気もするが、その環境の中で輝けば良いと感じている。



矢上体育館での練習

部員数

2005～2013年の部員数を以下に示す。



2005～2013年度部員数



全塾卓球祭(2013年3月)